自学共育

子どもが主体の学校づくり

栄小中合同通信No.12 2025. 7. 18

何かを創り上げることは楽しい！

７月 10 日に信州大学の荒井先生にお越しいただき、パネルディスカッションを行いました。宮尾明里さん、小林妃南さん、鈴木綺夏さんの３名がパネラーとして登壇し、荒井先生との討論を行いました。

	討論の中で話してくれた内容
宮尾明里さん（小６）	小中合同運動会の実行委員として、パン食い競争を担当した経験。１回目の練習であたふたした経験をもとにして、友達と協力しながら２回目に生かしたこと。これから音楽会で中学生とする演奏を頑張りたい！
小林妃南さん（中２）	小中合同運動会の実行委員として、綱引きや大玉運びを担当した経験。準備の大変さと共に、練習で事前に友達の協力をお願いしておくなど段取りの工夫など。これから“みんな”が楽しい桐の葉祭を創りたい！
鈴木綺夏さん（中３）	昨年度の村イベント「キャンドルナイト」の実行委員として、「雪だるま畑」を担当した経験。力を合わせると自分一人ではできないことができることがやりがい。今年復活する「雪ん子祭」を盛り上げたい！

また、荒井先生がフロアの皆さん（小４～中３）に意見を求めると、積極的な発言も多くあり大変盛り上がりのある会となりました。

失敗を恐れず、新しいことに挑戦したい！ 振り返りから

運動会やキャンドルナイトを通して、パネラーの人たちはどうすれば次よくなるのかなど、もう次の改善点を詳しく自己分析していてすごいなって思ったし私も見習いたいと思いました。（中３）
最初の動画を見てずっと白い人のパスを数えていて３回の異変に気づけなくて言われたことだけやると気づけないことがあるんだなと思いました。 荒井先生の話を聞いて失敗を恐れず、新しいことに挑戦したいと思いました。（中２）
行事や企画を考えて実行していくなかで何かを創り上げることは楽しいことを知り、挑戦しした結果成長できたと感じたのでこれから恐れずに挑戦したいです。（中３）

今回のパネルディスカッションを通して「失敗を恐れずに挑戦したい」との振り返りが数多くありました。なぜこのような感想が生まれたのでしょうか。私は、パネラー３ 名の「より良くしていこう」と真摯に取り組む姿がとても魅力的だったからだと感じています。また、「行事や企画を創り上げること自体が楽しい」と振り返っている子どもも少なくありません。さらに、挑戦した結果として「新たな気付きや自分の成長」を実感している姿も見られます。つまり、主体性を発揮して新しいことに挑戦することには、「その姿が魅力的に映る」「創ること自体に楽しさを感じる」「気付きや成長が得られる」といった確かな価値があることが、改めて明らかになりました。

今度は私の番だ！ ～スタッフとフォロアーの関係～

僕の仕事は、並ばせです。並ばせの仕事は椅子の配置を決めることです。決める時に意識したことは、パネラーとコーディネーターの人たちがあまり緊張をしないように（聞き手の）椅子の置き方を工夫しました。これからは、荒井先生が言ったことや、自分がやったスタッフのことを（普段の）行動に移し替えていきたいです。（小６）
自分は、スタッフだからなかなか楽しめないのかと思っていたけど、本番は全然違ってすごく楽しむ事ができました。会場にいた人たちが明るく盛り上げてくれて安心したし、すごくやりやすかったです。役割である、タイムキーパーも自分１人ではなく、小学生の子とできて（仲が）深まりました。途中、時間がないと思って（残り時間のパネルを）間違えて見せてしまったり、荒井先生が見てないのに下げちゃったりした事は反省点です。ですが、それ以上にお話が面白くて何時間も聴いていられるくらいでした。今回の貴重なお話をこれからの自分の生活に活かしていきたいです。（中１）

今回の成功を支えたのは、パネラーだけではありません。ハキハキとわかりやすく明快に進めていた「司会進行係」。機器の準備だけでなく、おもてなしの心で荒井先生を案内した「大道具係」。絶妙のタイミングで水やマイクを渡した「小道具係」。タブレットを譜面台に置く工夫により、手ぶれのない動画を残した「動画撮影係」。パネラーが緊張しない座席配置を工夫した「並ばせ係」。適切な指示で時間通りの終了を実現した「タイムキーパー係」。これらの係一人ひとりの「工夫と活躍」が結集し、「素晴らしいパネルディスカッション」という成果を生み出したのです。

今回のスタッフは、すべて応募によって選ばれた皆さんです。その中には「運動会では自分がとても楽しめた一方で、実行委員の準備が大変過ぎて楽しめなかった人がいたと聞いた。今度は私が頑張る番だ」と考えて手を挙げてくれたスタッフ（上記中１生徒）もいます。そして、そのような思いで頑張るスタッフを、フロアから明るく盛り上げ、温かく支えてくれたのがフォロアーの皆さんでした。

このスタッフの「楽しめた」という一言に、私は深い意味を感じています。それは単なる個人の感想ではなく、子どもたちが互いを思いやり、協力してよりよいものを創り出そうとする豊かな文化が、この学校に確実に根づき始めていることの証なのです。

（文責：田中　新一）